



DOKKYO SAITAMA HIGH SCHOOL

獨協埼玉高等学校

No.

15

2013.8.11

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441 FAX048-977-2031
URL <http://www.dokkyo-saitama.com/>

同窓会会報

35周年を前にして



校長 柳町 道廣

6月22日に恒例の同窓会が開催され、懐かしい顔ぶれが揃った。懇親会に先立って、今年4月に逝去された〇〇〇〇の冥福を祈って黙祷が捧げられ、皆、悲しみを新たにすることになったことだろう。先生は長い病との闘いを続けられたが、皆の願いも届かず、結局職場復帰は果たすことができなかった。改めてご冥福と感謝を申し上げたい。

また、昨年度も新たに4名の先生方が本校を退職された。いずれも本校の黎明期を担ってくださった方々である。〇〇〇〇各先生方には、本当にご苦勞様ありがとうございます。〇〇〇〇

ただ、今年の会には、昨年度体調を崩されて参加されなかった、前校長の〇〇〇〇が駆けつけてくださった。昨年度は同窓会15周年ということで、大勢の懐かしい先生がご参加くださったって賑やかな会になったが、〇〇〇〇のお姿がなかったことだけが心残りであった。お元気なご様子に皆が安堵したという意味で、これまた記念すべき会になったと言えるだろう。

今年は学園が130周年を迎える。そして来年は本校も35周年記念の年になる。食堂のリニューアル、高校トイレの改修完了など、いくつかの記念事業が1年前倒しで実施されることを併せてご報告申し上げます。

横と縦



同窓会会長 玉山 栄一

会員の皆様におかれましては、ますますご盛栄の事と思います。

平成10年に同窓会が発足して以来、同窓会本来の目的であります会員相互の親睦を深める活動を行って参りました。現在、ホームカミングデーを始めとした、横のつながりは、かなり強固なものになってきていると思います。そして更なる発展には、世代を越えた、縦のつながりが不可欠になってきます。この横と縦のつながりを強めるこそが、今まで見えていなかった新たな世界と出会うチャンスになります。

しかし、新たな世界に飛び込んでいくことは、自分がこれまで最高だと信じてきたものを否定しなければならぬ時もあるかもしれません。でもそれは、次なるステージへの一歩です。何も恐れることはありません。各分野で大いに活躍されている同窓生が沢山います。

ここは唯一、私利私欲なく相談できる場です。同じ校舎で学んだ仲間だからこそ遠慮せず語り合い、交流を深めていきましょう。

これからは、同窓会がさまざまな役として皆様の飛躍に少しでもお手伝いできます様、より一層活動に力を入れていく所存です。改めてまして、今後とも同窓会にご理解ご協力をよろしくお願い致します。

会報発送停止について

平成10年10月に発足した獨協埼玉高等学校同窓会の会員は、31期11,127名となり、会報の発行や総会懇親会の開催、ホームカミングデー！まほろばの会、在校生の支援など、さまざまな活動に取り組んでまいりました。

同窓会の事業運営費として、1期〜17期の同窓生については、振込用紙を同封し、みなさまに会費納入をお願いしてまいりました。しかし、同窓生は毎年増加する一方、会費納入が伸び悩んでおり、会報の発送が事業運営費を圧迫する状況となっております。

そこで、卒業生の皆様に会費納入を改めてお願いするとともに、会費未納の会員の方々については会報の発送を段階的に停止させていただくことと致しました。同窓生の皆様には趣旨をご理解いただくとともに、未納の会員におかれましては、会費の納入にご協力いただきますよう、重ねてお願いする次第です。

今後とも、獨協埼玉高等学校ならびに同窓会の発展にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

獨協埼玉高等学校同窓会

玉山 栄一

退職にあたって

●出会えた全ての生徒に感謝

同窓会などで子どもを連れた卒業生に会うと、立派に親をやっているんだと頼もしく思うと同時に在学時の様子を思い出します。学校の主役は生徒ですが、普段はその生徒の姿を全て見ることはできません。毎日クラスの一人一人と話をすることは難しい。話し易いと言えない笑顔や行動を生徒たちは見せてくれます。意義のある行事だったと思います。

林間と修学旅行は立場上数多く行きましたが、修学旅行は二期生から平和学習の一環として広島から長崎そして沖縄と場所を移していきました。行事の度に、普段見られない友達の様子を発見し、友情を深めてほしいと話しました。林間学校は各地を転々としていましたが、学年の終わる計るのに大きな意味を持っていました。修学旅行も生徒をじっくり見られる行事で、時間に遅れる者、食事の時お皿を重ねて片付けをしていた者が就寝後も廊下を走っていた者、果てには無断で家に帰ってしまった者まで、予想外の行動をとる生徒がいます。生徒を知る上で、これ以上の行事はないと思っています。本音を出す生徒に出せない生徒様々です。ただ言えることは、生徒たちにとっては良い思い出となったことと思うし、生徒との距離を更に縮めるきっかけになったはずで、思い出話は次回の集まりをまた楽しくするものです。今後も卒業生の活躍と学校同窓会の更なる発展を祈ります。

●退職にあたって

同窓生の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。何かと多忙な毎日、益々の活躍をお祈り申し上げます。

さて、私事ながら去る3月31日をもちまして本校を定年退職致しました。昭和56年4月に奉職以来30余年、本当に長い間お世話になり衷心

より感謝申し上げます。

「功の高きはこれ志、業の広きはこれ勤」という言葉に反し、母校のためにも何のお役にも立たず退くこと心苦しく存じます。思えば日々の要求に追われ、特に酔生夢死のような30余年間で、その間、個性豊かな同僚との邂逅があり別れがあり、その中から実に多くのことを学ぶ二万、何よりも純粋で豊かな可能性に満ちた皆さんとの出会いは生涯の宝物となりました。自由で伸び伸びとした校風のもと、多少羽目を外しても修正の利く環境は獨協玉ならではのものと確信しています。今後とも伝統ある獨協学園の建学の精神に基づき、臨機応変に一人一人の未来を見据え、心を育むしなやかな教育を切望せずには居られません。今、胸をよき二つの思い出にはあれ美しく、掛け替えのないものとして私の心に残ります。何かの折りに再開できたら懐旧談に華を咲かせましょう。これからはこれまでの経験を大切に、残された人生を自分なりに生きようと思っています。獨協玉の更なる隆盛と同窓生の皆さんのご健勝を心から祈念し、退職のご挨拶と致します。

●「船出から31年」

昭和57年4月、獨協埼玉高校が男女共学のスタートとなる年に専任として勤務しました。一年生は10クラスの大所帯で制服も今とは違いました。グレーのネクタイも今となつては懐かしい姿です。

飛行機を使わない修学旅行は5泊6日の九州でした。子供たちを中心とした体育祭や部活同士でライバル心を燃やしたマラソン大会では、放課後は各部の練習そこのけで所狭しと走り込んでいたものでした。初めての担任は男子がいるので少し戸惑いながらも（それまでは女子校勤務のため）やはり教育は男女共学の方が自然かもしれないと思ったりもしました。獨協は民主的でどんな意見もまずは受け止めてくれる環境でした。

自分が決意してやろうとすることはすぐに現実化する学校でした。

そして平成13年には中学校が創設され、それまで以上に忙しくなりました。若い中学生は活動的で学校にさらなる活気を与えてくれました。部活動は実質的には中高かけもちで身体がつては足りないと思うほど毎日が忙しく流れていきました。そんな中、平成14年に病氣となり、私の修行のような生活が始まりました。

それでも幸せなことにまわりの人たちに助けられ、子供たちに励まされ、息子に生きる力をもたらしながら、船出から31年、どうにかここまで漕ぎ着くことができました。39年間の教員生活の大半を獨協で過ごしてきたことになります。自分では頑張ってきたつもりですが、長い時間の中で皆様にはご迷惑をおかけしたことの方が多いかもしれません。今まで支えてくれた恩はいつまでも忘れずに過ごしていきたいと思います。今後の獨協玉中学高等学校のご発展を心より願っております。

●獨協との縁

昭和56年獨協埼玉高校に就任してから32年間大過なく勤めてきました。これを機に獨協と縁をもったきっかけを綴りたいと思います。

大学は出たけれど、定職もなく高校の非常勤と予備校の講師で何とか生活をし、時々、研究室に顔を出し、ゼミに参加したり、たまに発表したりして、研究を細々と続けていきました。なぜなら、在学中、論文は途中でしか出来ず、仕方なく期限切れで提出発表して、学位論文はなんとか通りました。発表後、他からの評価は悪くはなかったのですが、自分なりに納得が行かないのです。途中の段階だったのです。だがこれから先にその研究を続けるには大きな壁が、立ちました。その研究は、そんなとき、指導教授から「あの論文の続きはどうですか」と訊かれて、「なかなかうまくいきません」と答えるしかなかった。そんな

な私を知った先生は、その学位論文で使われた曲面上の特長点を使って、リーマンやタイヒミューラーがした仕事を書き換えてみてはどうかと、指導請け、編の論文を紹介されました。過去の偉人のした仕事を理解し、それらを自分の研究領域で使えるように書き換えなければならず、理解するだけで手一杯、ましてや、書き換えるなどとてもない。紹介された論文もあまりよく解らず、その方向でその特長点を使って研究しているのは、世界で数人だけでした。また、その特殊な点もまだよくわかっていませんでした。その論文のアイデアとしてはいいが、この手法を自分の研究領域で使えるように書き換えて、うまくゆくのかと疑問に思っていました。砂漠の真ん中で二人、鉄も種も苗もなくこの地を緑豊かな農園に変えようというのです。土台無理な話です。逃げ出したくなります。気がめいり、これから先どうなるのだろうかとも考えることもありましたが、も、研究でいいアイデアが浮かぶと、ガリレオの福山雅治のように、そんなことは忘れ、取り付かれました。その頃は親元で生活し、振り返ってみると、気楽なものでした。そんな私を見て、他の研究室の先輩が新しくできた高校の専任にならないかと誘ってくれました。その方は目白の獨協高校の出身で、獨協高校で非常勤していた関係でその話を持ってきました。早速、履歴書を書き、採用試験を受け何とか採用されました。開校二年目でした。その獨協高校出身の先輩と、私と同じ研究室でその方を紹介してくれた先輩と3人で私の就職祝い、鍋を囲んで新宿の居酒屋でしました。そのとき私はつくづくよい先輩や先生に恵まれたと感じました。以上をきっかけに獨協埼玉での32年間にわたる教員生活がはじまりました。ここまで勤められたことは、決して自分ひとりの力ではなく、多くの人々の支えがあったおかげだと思っています。ありがとうございました。

退職教員に向けて

先生の思い出

小池先生は、獨協大学で事務職員として勤務された後、本校開校2年目の昭和56年4月、獨協埼玉高校に採用された。移動される前に、戦後の獨協学園を復興された天野貞祐先生が亡くなった。先生は天野先生の葬儀に奔走されましたが、心労から体調を崩したことで赴任まもなく長期に休まれたことを思い出します。獨協大学から本校に移られた理由は、先生自身の研究されている「歴史」を教育という場で活かしたいという熱い思いからであった。

学園の創立精神教育理念を熟知されている先生は、大学での経験から学校教育に精通されており、草創期の本校にとって「即戦力」であり重要な「要」でもあった。40代後半からは長期に渡り教務主任を務められ、細かく煩雑な教務関連の仕事に忙殺される毎日だったと思う。多忙な毎日の中「ゆつくり、奈良迎り」を歩いてみたいよ。とつぶやかれたことを覚えている。多分もっと学園中心の時間を過ごしたかったのだろう。

御礼に代えて

在学時代には「国語表現」の授業で、丁寧な小論文添削をしていただいたことを記憶しています。そして本学に奉職してからは、なにより進路指導部主任として、生徒たちの将来を担うことがどれほど大切な仕事であるかを教えていただきました。私がこの仕事においてもっとも大きな支えをした際に、神奈川まで同

行していただいたことは忘れません。このミス为契机に、とにかく進路指導という仕事を私のライフワークにしようとの決意をしたのです。私たちは密かに先生を「親分」と呼んでいたのですが、まさに親分肌の先生でした。多くを語るよりは、背中や物言う先生で、その背中に学ぶことが多くありました。その頃はまだ併設大学進学が主流な中で、進路ガイダンスを実施することを許可していただいたりと、若く、生意気な私に多くを任せていただいたことに感謝しています。

教科に関しても、学年も二緒させていただきました。そのどの場面でもどうしり構えている先生の姿を理想に、教壇に立たせていただいています。そんな先生ではありませんが、つだけ先生の苦手なエピソードを書かせていただきます。飛行機の苦手な先生が、いつもより少しく慌てた姿がありました。空いた機内で、せつかくだかゆたり座れるように別の席に動かした私の手を取り、隣に座っているよとおっしゃった顔が忘れられません。先生にも苦手なものがあったんですね。もちろん修学旅行の際、生徒の前ではそんな様子をみじんも見せない姿はさすがでしたが、これからは健康に留意して、ご活躍ください。本当にありがとうございました。

のこと

が、本校にいらしたことは、設立3年目でした。男子校でスタートしたのは、準備が、まず共学化ありきで、その割には、準備らしい準備もなく、女子を受け入れるウハウウもないまま始まったように思います。最初に採用された女子教員の方は、さぞ苦労されたこと

思います。新しいルールを作る中心的にいらしたことが、

を言え

が、病気で休まれた間、練習試合の引率で行くと、相手校の先生が、しみじみさん

30年余り、二緒しましたが、その間、公私ともども様々なことがあり、とても書き尽くせませんが、印象的だったことを、1つだけ書きます。

ある日の午後

直な調子で私にさらさら「先生、私のこと、女だと思つてないでしょ。」と言われました。私はあまり絶句するということはないのですが、この時はやはり言葉が出ませんでした。言語の限界は、思考の限界であると悟りました。

長い間、お疲れ様でした。お体を大事になさって、ゆつくりなさってください。

先生の思い出

先生は、本校がまだ男子校であった開校2年目に赴任され、32年間の長きに渡り獨協での教員生活を送られました。当時は、受験学力中心の所謂「詰め込み教育」の反省から「基礎学力の充実」「語学教育の重視」「多様な自由選択制」を柱とする獨協教育の礎を築いていく時代でありました。私も先生と同様の採用でしたので、創設期の貴重で充実した時間を過ごしたことを思い出します。

先生は教員として生徒の指導にあたる

一方で、数学の専門家として最後まで研究を続けられました。毎年のように大学主催のセミナーに参加され、自身の研究と合わせて論文にまとめ、研究紀要等に発表されていました。高度で難解なテーマに挑戦し続ける姿勢には敬服するとともに、退職された今でも専門書を読み論文を書かれていた姿が目につかびます。

私生活では、時間に几帳面で通勤はいつも決まって7時40分でした。哲学者カントのようで、遠目に見える先生の姿からおおよその時間が分かりました。また、少食であり、飲み物もされず、品のいいものを長く大切に使うなど、日々の生活で無駄なことを無理なく徹底的に排除する生活スタイルを最後まで貫き通されました。

一方で、生徒の不注意や悪ふざけには寛大で「人は失敗から多くを学ぶものだ」と大らかに構えていたことを思い出します。

32年間は決して順風満帆な日々ばかりではなかったと思いますが、教員生活を立派にやり終えた今、心からお疲れさまと申し上げます。これからも健康に留意され、好きな数学三昧の日々を送られることを願っております。





平成25年4月3日 ご逝去

先生を 偲んで

数学科
先生が、去る4月3日
ご逝去されました。御年59歳でした。

先生は、昭和56年4月に数学科教諭となられてから、長い間本校の教育にご尽力されました。今回は伊藤先生を偲んで、親交の深かった方々にご寄稿いただきました。ここに先生のご遺徳、ご功績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

副校長

先生には教務部で一緒に仕事をしていた時に大変お世話になった。時間割変更という、時間がおそろしくかかる割にはあまり感謝されない仕事を、先生は二手に引き受けテキパキとこなしてくれた。

次年度の時間割編成でも、先生に助けられたことは幾度もある。春休み中に朝から晩まで10日間近く拘束されて全教員の全授業の時間割を組んでいくわけであるが、何度か必ず行き詰ってしまう。4月の授業開始に間に合うだろうかと不安を覚えつつ編成板をにらんでいると、思いもかけぬ妙手を考え出してくれるのが先生であった。行く手が開けて、皆で安堵し喜んでいると、「逆転の発想だね。」と、先生もまんざらでもない様子である。この「逆転の発想」に何度か助けられてようやく次年度の時間割が完成するのであった。

葬儀の打ち合わせのためご子息が学校にいられた時に、時間割編成での活躍にあらためて感謝すると、「家でも夜、コマを使いながら作業していましたね。『こう見えてもなかなか難しんだよ、お前』と、よく言っていました。」と教えてくれた。

先生の献身的な働きがなければ時間割は完成しなかったのだと今更ながら悟り、感謝の意を深くした。

先生のご冥福を心からお祈りする次第である。

教諭

大柄な体の割に小さめの声の持ち主。時間割の変更を瞬時にして行う特技の持ち主。酒を飲むと裕次郎の曲をちよつと恰好をつけて唄っていた。

林間学校での登山に生徒と一緒に、息を切らしながら山頂を目指した。

組合の大会に予定されていた人が都合悪くなった時、代役をしばしば引き受けてくれた。「ああいいですよ。浦和ですか。何時からですか。」

先生が本年四月、一年半の闘病生活の後、不帰の人となりました。先生は獨協埼玉中学高等学校が男子校の獨協埼玉高等学校としてスタートした草創期のメンバーでした。

大きな浅黒い顔に金ぶちメガネ、レンズの奥の眼は思いの外、優しくかった。告別式でのご長男の面差しが、若い頃の先生を彷彿とさせたのは、私だけの思いだったでしょうか。

二元教諭

今、何してるのかな？天国の世界で頑張っているかな？極楽の世界で楽しむのは、本当に早すぎたよ。私の方が十歳も年上だから。

先生との出会いは、獨協埼玉高校の男女共学制度の完成年度でした。私は、男女共学の第一回の第一学年主任で、彼は高二の学級担任でした。教員室における座席が背中合わせの席であったことから、先生

から「何処にお住まいですか？」と尋ねられ、「春日部です」と答えた途端、住まいが近いということがわかり、それがきっかけで仲良くなりました。いろいろと親交を深めていくうちに、彼も私と同じ、東京理科大の出身であることもわかりました。近所でもあり、美味しい酒をたびたび飲み交わしました。

それから、私は教務主任を命じられ、彼も教務の員として配属されました。彼からは時間割を担当してみたい、との希望を聞いていましたので、早速お願いをしました。本校の年間時間割は、いろいろと複雑な条件があり過ぎて、作成は大変困難な作業でした。でも、彼はどんな無理難題にも文句一言わず、一生懸命頑張ってくれました。春休みの殆どを時間割作成だけの為に協力していただきました。当時は教科研究会の時間も時間割の中には組み入れなかった時でしたが、彼の要望から、試行錯誤の結果、どうにか教科研究会の時間を組み入れ、時間割の作成が終了した時には、夜中をすでに回っていたのが思い起こされます。それらの経験を通じて、彼は時間割をいつも担当され、多くの教員の希望を聞き入れる程の余裕ができ、時間割作成のプロとして、最後まで任務を完遂しました。長い間、ご苦労様でした。と、労いの言葉を申し上げます。私はもう七十歳を過ぎ、残りの人生を謳歌していますが、彼の早すぎる人生が残念で仕方がありません。どうぞ極楽の世界で美味しい酒でも飲んで、私が行くまでゆっくり待っていて下さい。でもまだ、すくには呼ばないで下さい。ネ。

第16回 同窓会総会・懇親会開催

決算・予算報告

平成24年度 同窓会決算書

H24年4月1日～H25年3月31日

収入の部

前年度繰越金	25,003,078
終身会費卒業生	3,090,000
終身会費既卒生	340,000
利息	2,062
総会・懇親会会費	94,000
祝い金	20,000
雑収入	0

合計 28,549,140

支出の部

次年度繰越金	26,141,343
総会・懇親会費用	608,783
会報費	1,371,929
幹事会費	20,000
慶弔費(花束)	12,600
事務費	9,000
HP関連	24,900
卒業証書フォルダー	360,585

合計 28,549,140

平成25年度 同窓会予算(案)

収入の部

33期生 終身会費	3,090,000
H24年度より繰越金	26,141,343
預金利息	1,800
懇親会収入	60,000

合計 29,293,143

支出の部

総会費	600,000
会報費	1,360,000
幹事会費	20,000
慶弔費(花束)	30,000
卒業アルバム保管用	13,800
企画費	500,000
卒業証書入れ	400,000
HP関連	25,000
予備費	26,344,343

合計 29,293,143

参加いただき、同窓生はより感慨深い昔話に花を咲かせていました。今回は卒業して間もない同窓生に多く参加いただき、活気あふれる懇親会となりました。中学生や高校生のお子様を持つ卒業

生も増えておりますので、学校見学と兼ねてぜひ総会と懇親会にご参加ください。

今年も暑い中、6月22日(土)に第16回同窓会・懇親会が開催されました。総会では事業報告・会計報告に加え、同窓会役員2部変更・平成25年度事業計画並びに予算案などが承認されました。また、昨年に続き、終身会費未納入者に対する経過措置が終了し、平成25年度をもって会費未納入の会員の方への会報の発送を打ち切る旨の説明がされました。その後の懇親会では



生も増えておりますので、学校見学と兼ねてぜひ総会と懇親会にご参加ください。



創部は昭和57年、男女1期生が入学した年に6名の部員でスタート。初代部長は吉岡さんでした。初めての試合、オール1年生で当時第1シードの草加南高校と対戦、15対6、15対5で敗退、現在のラリーポイント制と違って、サーブ権がないと得点になりませんから勝つのはとてもむずかしいと感じていました。練習試合や合宿、合宿地はその年によって異なりますが、茨城県高萩、西武秩父、長野県更埴、越後湯

「部活動紹介」

なつかしきあの頃 第14回

女子バレーボール部



沢のM.S.館。怒ったり、さわいんだり、仲間割れしたり、泣いたり笑ったりで大変でした。それでも大きな怪我もなく終えたような気がします。少しずつ勝てるようになった頃、男子顧問の先生との合言葉、「男女一緒に県大会に」でした。男子はベスト8に残るようになり、早々と県大会に出場しましたが、女子はあと1勝の壁が厚く、なかなか実現できませんでしたが、平成7年東部地区のインターハイ予選に勝ち残り、念願の県大会に出場することができました。

昨年上野でバレーボール部OG会があり出席しました。なつかしい顔が並んでいて、当時の様子がすぐよみがえりました。いろいろありましたが楽しい時間を共有できましたことに感謝しています。



まほろばの会 29期

報告

今年の成人式は大雪に見舞われ、電車の乱れなどで残念ながら成人式に参加できなかった人も少なくありませんでした。そのような中、2013年2月23日に行われました「29期生 まほろばの会」は獨協埼玉高校同窓会のご協力の下、学校の食堂をお借りしまして開催されました。当日は150名を越える多くの卒業生や学年主任の先生を始め、担任の先生方、授業やクラブでお世話になった先生方など多くの参加者に恵まれました。お忙しい中、お時間を割いていただき先生方には本当に感謝しております。

卒業式以来、久しぶりに会った友人やクラスメイトはわずか2年足らずしか経っていないのに、とことなく大人に感じるところがありました。しかし、会話が始めると大声で笑ったりと、昔と変わらない仲間達とともに楽しい時間を過ごすことが出来ました。まだまだ先のことですが、40歳になったら「ホームカミングデー」でまた再会し、昔話に花を咲かせた

案内 30期生「まほろばの会」開催について

2014年2月22日(土)午後、懐かしの食堂に集合!

2012年3月に卒業した30期生のみなさん、学年主任であった先生をはじめ、担任をしてくださった先生方と、20歳をお祝いしましょう!
多くの30期生が集うことを楽しみにしています。 代表幹事

いと今からとても楽しみにしています。最後になりましたが、案内状や当日の準備など協力してくださった先生方へこの場を借りまして御礼申し上げます。

教育実習を終えて

私には就労経験が一切ないことから身内以外に教えるということがどういったものが、非常に不安を感じたものです。しかし、実際に授業を始めて

3週間の教育実習を終えて、早くも一月以上が経ちました。長いようで短かった3週間は、振り返っても一日一日を鮮明に思い出すことができます。実習は毎日が勉強で、先生方の忙しさと生徒のみんなから教わることも沢山、辛いことも沢山ありました。けれどそれ以上にとても楽しい3週間でした。今度は教員として獨協埼玉に帰れるよう頑張ります。最後にこの場をお借りして、先生方生徒達に感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございます。

みると、生徒達はとても協力的で順調に授業を進めることができました。授業準備をする時も担当の先生が親身になって相談に乗ってくれました。部活動にも3年というブランクがあるにも関わらず、参加させていだき本当にありがとうございました。文字制限のため恐ろしくありきたりな文章になってしまいましたが、私に教鞭を執らせてくださった先生方、授業を受けてくれた中学2年生、高校2年生の方々、に改めて感謝の意を伝えたいと思います。3週間ありがとうございました。

三週間の教育実習を終えて、21年間の人生で最も充実した3週間でした。実習中は辛いことや楽しいこと、そしてなにより学ぶことが沢山あり、今後の人生の大きな糧になったと思います。指導教員の熊谷先生はじめ多くの先生方、クラスの生徒達、そして教育実習生の仲間達の協力があったからこそこの充実した教育実習でした。まだまだ未熟な私ですが獨協埼玉の先生方に負けないような立派な教員を目指して日々努力していきたいと思ひます。



INFORMATION

第34回 蛙鳴祭

9月21日^土・22日^日

10:00~15:00

今年は「獨魂」！本校の愛称に由来するこの言葉は、「どったま」と読みます。昨年の蛙鳴祭後に全生徒から募集して、実行委員会の投票で決定しました。今年は獨協の魂を見せる蛙鳴祭です。

蛙鳴祭ステージ タイムテーブル

第一体育館	9月21日 ^土	9月22日 ^日
10:05~11:00	高校演劇部	
11:00~11:35	中学演劇部	
11:40~12:20	メディア(高校3年1組)	
12:20~12:50	ソングリーディング部	
12:50~13:40	コーラス部	
13:40~15:00	吹奏楽部	

入試ミニ説明会

中学

9月21日^土 13:00~14:00

高校

9月22日^日 13:00~14:00

中学入試

◆募集 男女 160 名

◆学校説明会

第1回 9月29日^日 10:00~

第2回 10月27日^日 10:00~

第3回 11月23日^土(祝) 10:00~

第4回 12月15日^土 10:00~

◆入試 第1回 1月12日^日

第2回 1月18日^土

第3回 2月3日^日(午後)

※本校と川口会場の2会場で実施(第1回・第3回)

高校入試

◆募集 男女 160 名

◆学校説明会

第1回 9月29日^日

13:30~

第2回 10月27日^日

13:30~

第3回 11月23日^土(祝)

13:30~

◆入試 第1回 1月22日^水

第2回 1月23日^木

※詳細は本校 HP でご確認ください。

入試



同窓会役員人事紹介 (括弧内数字は卒業期)

同窓会からのお願い

①同窓会運営に関するご意見
がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願ひします。

②住所など変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。

③同窓会は、同窓会活動を行なう上で取得させていただいた皆様の個人情報に適切に保護し、会報、同窓会が主催協力する行事等の開催案内の送付、学校で保有する卒業生データベースの補完のための情報提供に、これらの情報を利用します。

※なお、情報の提供に同意されない方は、事務局まで届け出てください。

※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報を出そうとしている団体があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意ください。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願ひいたします。

※既にお振込みいただいた方には振込用紙は封入されておりません。

獨協埼玉高校
同窓会連絡先

〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316 TEL048-977-5441 FAX048-977-2031
事務局(koda@dokkyo-saitama.ed.jp) URL <http://www.dokkyo-saitama.com/>

9期生ホームカミングデー報告

「本当の大人として輝く40歳」を懐かしい仲間と祝うため、「祝! 2nd成人式! 9期生ホームカミングデー」を開催しました。

当日は、こよなく獨玉と仲間を愛する9期生110名(!)が母校に集い、楽しいひとときを過ごしました。また、当日はお世話になった先生方も多数ご参加いただき、なつかしい10代の思い出に笑顔がいっぱいでした。

このホームカミングデーの開催をきっかけに、フェイスブック等に9期生のグループを作り、今もなお毎日交流がつついています。

いよいよこの秋は10期生。同窓会の素晴らしい伝統を引き継いでいってください!

(9期生ホームカミングデー実行委員会)



会計報告

(収入)
¥2,000円×110名
＝¥220,000
計 ¥220,000

(支出)
飲食代 ¥125,800
通信費 ¥21,315
事務費 ¥4,275
お花・お菓子代 ¥20,500
計 ¥171,890

(残金)
¥48,110
※29期生
まほろばの会に寄付

S48. S49年生まれ

祝! 2nd成人式!

10期生ホームカミングデー開催!!

今年40歳を迎える10期生の皆さん(S48、S49年生まれ)、お待たせしました!! 同窓会「ホームカミングデー」の開催です。20歳が大人の仲間入りの歳ならば、40歳は本当の大人として輝く歳です!

そんな記念すべき年に母校で、懐かしい仲間やお世話になった先生方と思い出に残る1日を過ごしましょう!!

一人でも多くの参加をお待ちしております!!

日時 平成 25年 10月12日(土)

- 一次会/受付13:30 開会14:00
獨協埼玉中学高等学校 小ホール
- 二次会/18:00頃～
せんげん台駅周辺を予定
(詳細は後日、ブログ等でお知らせ致します)



実行委員

詳細はこちら!!

10期生ホームカミングデー
ブログもご覧下さい!!

<http://ameblo.jp/dottama10/>

